

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 株式会社東芝（証券コード: 6502）

### 【据置】

|         |      |
|---------|------|
| 長期発行体格付 | BBB+ |
| 格付の見通し  | 安定的  |
| 国内CP格付  | J-2  |

### ■格付事由

- (1) 総合電機大手の一角。エネルギーシステム、インフラシステム、ビル、リテール&プリンティング、デバイス&ストレージ（半導体、HDD 他）、デジタルといった幅広い事業領域に展開している。市況変動の大きい半導体メモリを手掛けるキオクシアホールディングスが持分法適用会社（持分比率 40.6%）となっており、最終損益は同社の業績変動による影響を受ける。一方、当社は 22 年 4 月 7 日に、株式の非公開化を含む戦略的選択肢の検討に向けて特別委員会を設置すると発表した。
- (2) 業績は底堅く推移するとみられる。市況悪化や素材・輸送費高騰などの影響を受けている事業がある一方、GX に貢献するパワー半導体などで構成される半導体事業の業績は力強く、多様な収益源を有する強みが発揮されている。財務面については株主還元を厚くする中でも大きな変化はなく、おおむね良好な財務構成が維持されている。以上を踏まえ、格付を据え置き、見通しは安定的とした。JCR は、当社が検討を進めている戦略的選択肢の検討状況を引き続き注視していく。今回の格付判断には当社の戦略的選択肢の検討に対する JCR の予見は反映していない。戦略的選択肢の内容によっては格付に悪影響が及ぶことも想定され得る。
- (3) 23/3 期営業利益は 1,250 億円（前期比 21.4%減）の会社計画であり、営業減益に転じる見通しである。HDD 事業は市況悪化の影響を強く受けている。素材・輸送費高騰の影響に対しては売価アップを進めているものの、吸収し切れていない。また、エネルギーシステムにおけるプロジェクトのコストアップ、リテール&プリンティングにおけるのれん減損、HDD 事業における製品保証引当金繰入なども営業利益を下押しする見込み。一方、24/3 期はこれら要因の緩和が営業利益の押し上げ要因になるとみられる。
- (4) 23/3 期第 2 四半期末の株主資本は 12,458 億円（前年同期末 10,451 億円）、株主資本比率は 34.2%（同 30.5%）となった。22 年 8 月に 692 億円の特別配当を実施したものの、株主資本の拡充と株主資本比率の改善が進んだ。これには、外貨換算調整額といったその他の包括損益累計額の好転も影響している。ネット DER は 0.06 倍（同 0.05 倍）と大きな変化はない。積極的な株主還元が引き続き想定され得るものの、適正資本水準の検証を堅持しており、財務構成の大幅な悪化に繋がる懸念は小さい。

（担当）千種 裕之・関口 博昭

### ■格付対象

発行体：株式会社東芝

### 【据置】

| 対象      | 格付   | 見通し |
|---------|------|-----|
| 長期発行体格付 | BBB+ | 安定的 |

| 対象         | 発行限度額    | 格付  |
|------------|----------|-----|
| コマーシャルペーパー | 6,000 億円 | J-2 |

## 格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2023 年 1 月 6 日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：殿村 成信  
主任格付アナリスト：千種 裕之
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014 年 1 月 6 日) として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014 年 11 月 7 日)、「電機」(2011 年 7 月 13 日) として掲載している。
5. 格付関係者：  
(発行体・債務者等) 株式会社東芝
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
  - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
  - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：  
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置：なし

## ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

## ■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

## ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 **日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官(格付)第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル